

2026年3月23日
日野自動車株式会社
日野グローバルロジスティクス株式会社

日野自動車、日野グローバルロジスティクス、 クルマ・文化・社会・パートナーシップ大賞にて「グッドパートナーシップ事業」に選出

日野自動車株式会社(本社:東京都日野市、社長:小木曾聡、以下 日野)とそのグループ会社である日野グローバルロジスティクス株式会社(本社:東京都青梅市、社長:山根良和、以下 HGL)は、このたび「第5回クルマ・文化・社会・パートナーシップ大賞(主催:日本自動車会議所、以下 GSP大賞)」にて「グッドパートナーシップ事業」に選出されました。



左から日野社長小木曾、HGL社長兼日野CLO山根

GSP大賞は、自動車業界で働く人々や自動車ユーザーを含めた自動車に関わる全ての方々が、クルマ文化の向上や社会・自動車業界への貢献に対して感謝の意を表する表彰制度で、2021年に創設以来今回で5回目を迎えました。

今回受賞した事業「GPS連携で荷待ち/荷役時間を自動把握し、業務効率化と物流課題解決に寄与」は、GSP大賞における「新たなアイデアや課題解決を通じたモビリティ社会の発展につながる取り組み」の部門にて、物流業界全体の課題解決に貢献する先進的な取り組みとして評価いただきました。

日野は「物流の2024年問題」への対策として、日本自動車工業会が策定した自主行動計画に基づき、トラックドライバーの長時間労働改善および輸送能力不足の解消につながる改善活動を推進しています。

このたび、日野はGPSを活用した荷待ち/荷役作業時間の自動計測システム「TRACS (Truck Access Control System)」を業界に先駆けて導入し、日野の3工場(古河・新田・羽村)および日野グローバルパーツセンターにて運用を開始しました。システムの運用管理はHGLにて実施しています。

これにより、次の課題解決に寄与することができました。

- ・荷待ち/荷役作業時間の自動取得により、ドライバーの入退場時の記帳や手入力の業務負担を軽減
- ・正確なデータに基づく現状把握、対策決定により、ドライバーにとって安心して仕事ができる環境を維持
- ・物流事業者とのデータ共有により、各社の車両運行を効率化
- ・HGL がデータ管理、提供することにより公正性が担保され、日野としてのコンプライアンスを確保

日野とHGLは、今後もシステムのさらなる機能追加とユーザーニーズの反映を進め、トラックメーカーと物流会社として、お客様であるドライバーの方や物流事業者様の課題を解決することにより、持続可能な社会の実現を目指します。

以上

<関連リンク>

[Hacobu、日野グローバルロジスティクス、日野自動車、トラックの荷待ち・荷役作業時間削減に向けた共同プロジェクトを始動](#)

